

建久後鳥羽院臨幸七條院御所御送物笙琵琶大納言實宗隆忠取之、

承元土御門院臨幸上皇鳥羽後御所御送物琵琶一面大納言道光卿取之御幸始雖有用意被止之了、

承久順德院臨幸同御所御送物資經卿口云藤大納言持御本參進予請取之云々二種御方著列、無所見、

〔百練抄十二順德〕承久三年四月廿六日庚辰今夕新院順德初御幸高陽院鳥羽後右大將以下供奉攝政隨身馬沛艾蹴北面衛府召其身被下院御厩云々、

〔百練抄十四貞永元年十一月九日乙卯上皇堀河後御幸始也廂御車御直衣右大將以下供奉攝政扈從、

〔百練抄十五後嵯峨〕寛元四年二月十六日丙子今日上皇嵯峨後御尊號後始御幸承明門院土御門后在公卿攝政實經藤原以下廿三人殿上人定平已下卅三人後騎大宮大納言御後官人長村等也、

〔增鏡九草枕〕新院龜山二月七日十一文永御幸はじめさせ給大宮院結子のおはします中御門京極實俊の中將の家へなる御直衣から庇の御車上達部殿上人残りなくうへのきぬにてつかうま

つらるおなじ十日やがて菊のあじろ庇の御車たてまつりはじめむ此たびは御ゑぼうしなをしおなじ院へまゐり給同廿日布衣の御幸はじめ北白川殿へ倉后いらせ給ふ八葉の御車萌木の御狩衣山吹の二御ぞ紅の御ひとへうす色のおり物の御さしぬきたてまつる、

〔後光嚴院御幸始記〕應安四年閏三月廿一日甲戌新院光嚴御幸北山第御脱屣以後初度也右大辨長宗朝臣奉行如法可爲已刻之由大丞一昨日相觸畢然而伺時分人々參入、

〔執次詰所記靈元〕貞享四年四月三日布衣始御幸始、

〔百一錄〕貞享四年四月三日仙洞元靈御幸始入御于鳳闕午刻白御轎十德之者供之供奉公卿殿上